

# 子育ては いろいろな人の力と共に

〈特集〉体罰等によらない子育てを広げよう

子育ては楽しいことばかりではなく、思い通りにいかなかったり、感情的になってしまうこともあります。子育ての大変さを保護者だけで抱えこまずにみんなでサポートする環境づくりが大切です。子育て中の保護者への支援や体罰等によらない子育てを推進するため、社会全体で取り組んでいきましょう。

問い合わせ 子ども家庭総合支援課 ☎31-0643

## みんなで育児を支える社会へ

2年以上の長期にわたるコロナ禍のもと、社会・経済活動の変化だけでなく、子ども達の生活や子育てにも少なからず変化が生じています。国においても、令和5年4月には「こども家庭庁」の創設が進められており、子ども政策に関し誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」を目指して取り組んでいます。子育てはとても大変なことです。子どもを育てる上で、支援を受けることも必要です。子育ての大変さを保護者だけで抱えるのではなく、ホームヘルプやショートステイ等(右記ページ)の芦

屋市の子育て支援サービスを利用してみませんか?少しでも困ったことがあれば、市の相談窓口にご連絡ください。子育てには、気力・体力をととも使います。そのため、困ってから相談に行こうと思ってもその気力がわかなくなってしまうこともあります。落ち着いているときに、地域の子育ての遊び場等に子どもを連れて出かけてみることも一つの方法です。子育ての不安を話すことで気分転換になり、気軽に相談できる関係ができるかもしれません。



## 「しつけ」と「体罰」は違います

親には子どもの利益のために監護・教育する権利・義務があります。このため、親は子どもを養育し、教育するためのしつけをしますが、「理想の子どもに育てよう」「将来こまらないようにしっかりとし



つけなくては」「他人に迷惑をかけない子どもに育てなくては」等といった思いから、時にはしつけとして子どもに罰を与えてしまうことがあるかもしれません。しかし、例えしつけのためだと親が思っても、身体に何らかの苦痛を引き起こし、または不快感を意図的にもたらす行為(罰)である場合は、どんなに軽いものであっても体罰になります。「体罰」は法律で禁止されています。

### 子どもがもっている 4つの権利

子ども達が生きる上で当たり前前に約束されていることです。



たたかれたり  
ひどいことを言われない



保護者から  
育てられる  
守ってもらえる

元気に・健康に毎日  
すくすくと成長する



自分の意見を言う  
話を聞いてもらえる



### 保護者自身の工夫のポイント

#### 否定的な感情が生じたとき

- そういう気持ちに気づき、認める
- 子どものことが原因なのか、自分の体調の悪さや忙しさ、孤独感など、自分自身のことが関係しているのかを振り返ってみる
- 気持ちが少し落ち着くことがあります。

#### 自分の時間や心に余裕がないとき

- 深呼吸して気持ちを落ち着ける
- ゆっくり5秒数える
- 窓を開けて風にあたって気分転換
- ストレス解消につながりそうな自分なりの工夫を見つけましょう。時には保護者自身も休むことが大切です。

体罰がよくないとわかっていても、いろいろな状況や理由によって、それが難しいと感じられることもあります。安心感や信頼感、温かな関係が心地よいのは子どもも大人も同じです。

